

10月 図書館だより 10月号

渋谷区立代々木中学校
学校長 山本 茂浩
学校図書館専門員
衛藤直子
梶原麻理

10月27日～11月9日は読書週間です

今年の第78回読書週間の標語は「この一行に逢いにきた」です。読書週間が初めて開催されたのは、終戦まもない1947年でした。「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という志のもと、全国の出版社や書店、公共図書館などが中心となって読書週間を盛り上げました。

「読書の秋」という言葉は、漢詩「ふしよをしようなんによむ符読書城南詩」が発祥で、「秋になりようやく夜の灯に親しみ書物を広げられる」という意味で使われたという説があります。夏目漱石が小説『三四郎』で引用し、日本でも馴染みのある言葉となったようです。

秋の夜長に、本の世界に浸ってみませんか？ 参考：『故事成語を知る辞典』小学館

新しい本 貸出始まりました

みなさんからのリクエストを優先して選書した本が、160冊あまり入荷！貸し出しも始まっています。読書の秋、ぜひ本を探しに図書館までおこしください！
今回在庫切れだったものは、再注文する予定です。今後も読んでみたい本を教えてくださいね。

*本のリクエストは図書室にて随時受け付け中

★★ 図書館クイズ ★★

世界で最初にミステリー小説を書いたといわれる作家は次のうちどれでしょうか。

- ① コナン＝ドイル
- ② モーリス・ルブラン
- ③ エドガー・アラン・ポー

『日本ミステリー事典』新潮社

★答えは右の方にあります。

今月の特集

- ミステリー小説
- ハロウィン
- ノーベル賞



★印の日は



～Mystery Novels 特集～



『ツナグ 想い人の心得』 (分類:913)

辻村深月/著 新潮社/出版



一生に一度だけの死者との再会を叶える使者「ツナグ」。祖母から役目を引き継いで7年。歩美の元には、亡き人との面会を望む人々が、誰にも言えぬ想いを胸に秘めて訪れる…。

『怪盗ルパン謎の旅行者』(ルブラン ショートセレクション 1)

(分類:953) モーリス・ルブラン/作 平岡敦/訳 ヨシタケシンスケ/絵
理論社/出版



ルパンのいざなう推理のうずへ！パリからノルマンディー地方へ逃れるルパンが、列車のなかで出会った怪しげな男と対決する「謎の旅行者」など、モーリス・ルブランのアルセーヌ・ルパンシリーズから4編を収録する。

『かがみの孤城』 (分類:913) 辻村深月/著 ポプラ社/出版



部屋に閉じこもっていたところの目の前で、鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先の世界には、似た境遇の7人が。秘めた願いを叶えるため、7人は城で隠された鍵を探す。

★クイズのこたえ・・・③ 1841年に発表した『モルグ街の殺人』が最初といわれています。